



青谷横木遺跡の道路遺構

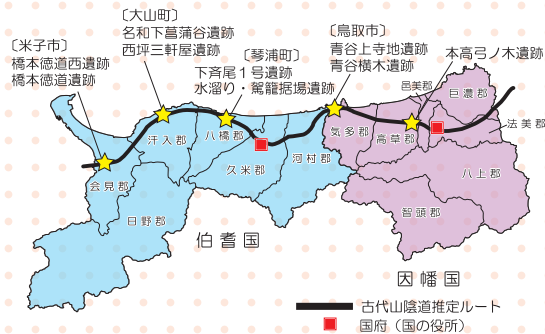
古代山陰道は<sup>えきろ</sup>駅路とも呼ばれ、現代でいう高速道路にあたります。駅路とは古代国家が都と地方を結ぶために飛鳥時代から奈良時代にかけて整備した道路でした。青谷横木遺跡や青谷上寺地遺跡など近年、相次いで発見された古代山陰道。最新の調査成果でみえてきた古代山陰道とはいったいどんな姿だったのでしょうか？

## あお や よこ ぎ 青谷横木遺跡 (鳥取市青谷町)

低湿地に頑丈な<sup>もりと</sup>盛土でつくられ、国内で初めて柳の街路樹が見つっています。また、「<sup>しきば</sup>敷葉・<sup>しきそだ</sup>敷粗朶工法」よばれる盛土内に木の枝や葉を敷く工法が採用されています。これは道路が崩れるのを防ぐとともに排水を行う、朝鮮半島から伝わった当時における最高水準の土木技術でした。

## 発掘された古代山陰道

鳥取県内では今のところ9遺跡で古代山陰道とされる道路跡が見つっています。



## あお や かみ じ ち 青谷上寺地遺跡 (鳥取市青谷町)

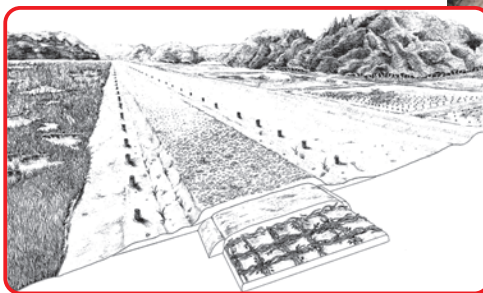
青谷横木遺跡と同じく「<sup>しきば</sup>敷葉・<sup>しきそだ</sup>敷粗朶工法」が用いられています。<sup>しきり</sup>条里地割(土地区画)を示す盛土も一体で築かれ、駅路の建設が土地開発を含めた国家プロジェクトであったことが分かります。



青谷上寺地遺跡の道路遺構



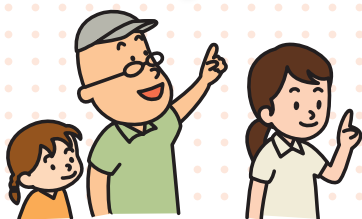
敷葉・敷粗朶工法



青谷上寺地遺跡の古代山陰道復元イラスト

駅路は都と地方を最短距離で結ぶためにまっすぐつくられていたんだね。

そのために現在の高速道路のルートと重なって見つかることがよくあるよ。



## しも さいのお ごと 下齊尾1号遺跡 (琴浦町槻下)

まっすぐに延びる道路跡が見つっています。道幅は9mの広さがあります。



(提供：琴浦町教育委員会)